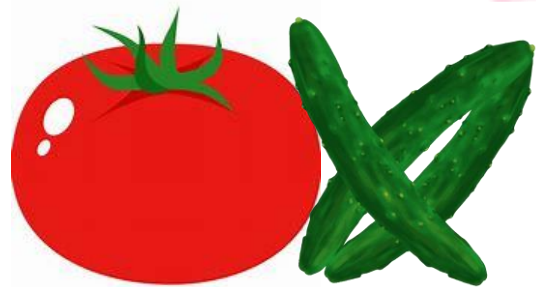




トマトやキュウリのウイルス病を媒介する微小害虫 (コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類)の防除対策



トマトやキュウリに寄生するコナジラミ類やアザミウマ類、アブラムシ類など微小害虫は、作物を直接吸汁して被害を生じる他、各種のウイルス病を媒介して、甚大な被害を発生させる場合があります。

防除対策として、施設に微小害虫や病原ウイルスを **①入れない**、**②そこで増殖させない**ことが重要です。このため、下記を参考にして、耕種的や物理的防除と薬剤防除を組み合わせた総合防除を行って下さい。

トマトのウイルス病

：「黄化葉巻病」(タバココナジラミ)、「黄化病」(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)「黄化えそ病」(アザミウマ類)、など ※ () 内は媒介昆虫

キュウリのウイルス病

：「黄化えそ病」(ミナミキイロアザミウマ)、「退緑黄化病」(タバココナジラミ)、「黄化病」(オンシツコナジラミ)、「キュウリモザイクウイルス」(アブラムシ類) などがあります。

防除対策のポイント

- ① **施設に入れない対策**として、出入口や天窓・側窓など開口部に**防虫ネット**(タバココナジラミには細かい目合い 0.4 mmなど)を設置し、施設内外に雑草等があれば、常に除草を徹底してください。**特に育苗中は注意**して、ウイルス潜在感染株の持込や微小害虫の侵入などを厳重に遮断することが必要です。
- ② **増殖させない対策**としては、常に作物を観察して早期発見に努め、発病株の抜き取りや微小害虫の防除を行います。なお、施設内に**アザミウマ類が好む青色の粘着トラップ**や**コナジラミ、アブラムシ類が好む黄色の粘着トラップ**を設置して誘引し、密度の抑制を図るほか、誘引数で薬剤防除時期の目安にします。
- ③ **栽培終了後の対策**として、害虫が施設から飛散する前に、**ハウスの蒸し込み処理**などにより死滅させることで、周辺ハウスや雑草への飛散を防止し、次作での施設への侵入抑制効果が期待されます。

表1 トマトとミニトマト コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類の主な防除薬剤 (令和5年11月15日現在)

薬剤名	コナジラミ類	アザミウマ類	アブラムシ類	希釈倍率	使用時期/使用回数	分類
アニキ乳剤	○	○ミカ		1,000~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
ウララDF	○	○ミカ	○	2,000倍 2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	29
グレースシア乳剤	○	○		2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
コルト顆粒水和剤	○		○	4,000倍	収穫前日まで/3回以内	9B
ディアナSC	○	○		2,500倍 2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
トランスフォームフロアブル	○		○	1,000~2,000倍 2,000倍	収穫前日まで/2回以内	4C
モスピラン顆粒水溶剤	○	○	○	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	4A

注) 1. 表1のアザミウマ類の欄中、ミカはミカンキイロアザミウマの農薬登録です。
2. 表1および2の分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 キュウリ コナジラミ類、アザミウマ類、アブラムシ類の主な防除薬剤 (令和5年11月15日現在)

薬剤名	コナジラミ類	アザミウマ類	アブラムシ類	希釈倍率	使用時期/使用回数	分類
アグリメック	○	○		500~1,000倍	収穫前日まで/2回以内	6
ウララDF	○		○	2,000倍 2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	29
グレースシア乳剤	○	○		2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
コルト顆粒水和剤	○		○	4,000倍	収穫前日まで/3回以内	9B
サンマイトフロアブル	○		○	1,000~1,500倍	収穫前日まで/2回以内	21A
スタークル顆粒水溶剤	○	○	○	2,000~3,000倍 2,000倍	収穫前日まで/2回以内	4A
ディアナSC	○	○		2,500倍 2,500~5,000倍	収穫前日まで/2回以内	5
トランスフォームフロアブル	○		○	1,000~2,000倍 2,000倍	収穫前日まで/2回以内	4C
モベントフロアブル	○	○	○	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	23

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。